

資料タイトル：女子部卒業生会年表（戦後分）

作成者：J56 吉澤裕子

作成年：2021年

資料内容：戦後、女子部卒業生委員会が再開した1953年からの主なできごと、活動内容を年代順に記した。

右側は自由学園の主なできごと。

典拠資料：自由学園女子部卒業生会報

『自由学園一〇〇年史』該当章：第Ⅲ部第十二章

二次利用に際して：閲覧のみ。

## 女子部卒業生会年表

西暦	卒業生会	西暦	自由学園
1953	女子部卒業生会委員会が発足		
1954	委員会発足後、最初の名簿を発行		
1955	卒業生の学びの場として、講習会、勉強会が始まる	1955	羽仁吉一逝去 夏期学校始まる
		1957	羽仁もと子逝去 羽仁恵子が第2代学園長に就任
1958	初めてのセールを開催（明日館にて）		
1959	歌舞伎鑑賞会など催し物や講習会の活動が盛んになる		
1961	「羽仁両先生記念感謝醸金」として1300万円を寄付	1961	学園創立40周年
1971	同学会と合同の卒業生大会開催（出席1000人余）	1971	学園創立50周年
1973	専任の事務係ができ、以降2, 3人体制となる 羽仁もと子生誕百年記念事業に参加	1973	羽仁もと子生誕100年記念事業が行われる
1975	学園創立50周年記念事業醸金の寄付総額約5800万円となる		
1981	学園創立60周年記念醸金に総額1億5千万円を寄付 『自由学園の歴史』編纂グループが活動開始	1981	学園創立60周年
1983	『自由学園の歴史Ⅰ 雑司ヶ谷時代』発刊（卒業生会編）		
1987	明日館保存運動のため卒業生有志のグループ結成		
1989	卒業生会主催の夏期・秋季講座始まる（～1998年）	1989	羽仁恵子学園長逝去
		1990	第3代学園長に羽仁翹が就任
1991	『自由学園の歴史Ⅱ』発刊（卒業生会編）	1991	学園創立70周年記念事業の1つに 明日館修復計画が盛り込まれる
1993	学園創立70周年醸金に総額1億4千万円を寄付		
1995	阪神大震災支援活動にあたる		
1997	自由学園評議員改選にあたり、女子部卒業生会から初めて 候補者2名を推薦、2名が評議員となる 体操会でのお弁当作りが中止となる（関西でのO-157による 食中毒発生をきっかけに衛生面での規制強化のため）	1997	明日館が国の重要文化財となる
1999	卒業生の組織について同学会と共に考え始める	1999	最高学部が男女共修となる （女子部は高等科3年で修了）
2000	委員室に初めてパソコンを導入		
2001	自由学園評議員に5名が就任（以後4年ごとに5名が就任）	2001	学園創立80周年記念事業募金が 始まる 明日館保存修復工事が完了
2002	卒業生会の規約が初めて施行される 最高学部生の就職支援委員として2名が協力（以後、常時2名～ 数名が委員となる）	2002	就職支援委員会を結成

西暦	卒業生会	西暦	自由学園
2003	卒業生会室の改装工事を行う	2004	第4代学園長に十文字輝雄就任 羽仁翹前学園長逝去
2005	セールに替えて「大芝生草取り会」を実施		
2007	ホームページを開設		
2008	新卒業生歓迎会を同学会と合同で行う	2008	第5代学園長に矢野恭弘が就任
2009	「催し物」の担当クラスをなくし、新しい実行方法を提案、別に窓口を設ける 女子部で「訪問スピーチ」を行う（～2013年）		
2010	100年史事業協力委員（のちに100年史編纂協力委員）に2名が就任	2010	「100年史編纂準備委員会」発足 学園創立90周年募金が始まる
2011	東日本大震災被災者救援のため募金、支援活動を行う 女子部高等科修了生（1999年度以降、任意）が入会	2011	学園創立90周年行事が中止となる 「東日本大震災救援活動センター（SKC）」設置
2013	委員会活動の負担軽減を前年から検討、スリム化を計る		
2014	女子部高等科修了時に全員が入会となる		
2015	高等科修了生歓迎会が初めて行われる		
2016	会報の仕事を係以外に専任2名がサポートする体制に変更	2016	第6代学園長に高橋和也が就任
2017	学園長の要請を受け、同学会との統合組織の準備委員会発足		
2020	組織統合についての決議を行い、承認される	2020	創立100周年記念募金が始まる
2021	初めてオンライン卒業生会を開催 「自由学園南沢会」発足	2021	創立100周年